

派の代表河田賢治が主事の椅子に就くに及んで乗離
復た如何とすべからざるに至った。

二 関東同盟會の新擧

鉄工組合内の兩派は形勢を自派に有利からしむべく
各関東同盟會内に於て策動する処が有つたので従来
から萌芽を以て居た同盟會内に於ける左右兩派の
對立を延びて自ら次第に明白となり、遂に大正十三年
十月五日同會大会に於て爆発する事となり、即ち東
副労働組合(左傾)の提案に係る議案が修正せられ
之に憤激して提出せる議長(内田藤七、右傾)不信性
の勸議亦小教を決とふるや、海軍政之助を先頭に左
記の傾合分子は奮然退却し大会をして異常の紛糾裡に
閉会するの已むおさきに至らうとせられた。

東部合同労働組合代表代議員

時計工組合
関東系副労働組合

十一名
四名
八名

横濱合同労働組合

計二十七名

(註大会代議員総數百九十八名)

四名

三 総同盟中央委員會の調停不調

此に於て関東同盟會は上記の行爲を以て組合の秩序
を紊すものとおし、総同盟中央委員會に對し左記の中
出をなした。

一 上記四組合を総同盟より除名する事と
二 枚浦啓一、高松市太郎、渡辺政之助、相馬一郎、春日庄丸
郎を総同盟より除名する事と

三 河田関東鉄工組合を主事と辭職を勧告する事と
中央委員會は十一月二、三、四日の會合に於て此件を審
議したが結局加藤西尾、鈴木の三名より成る小委員會
に之を委し、小委員會は其後五日間に亘つて和解せし
むべく努力したが、同盟會の容る所とあらざる鈴木(一
會長)加藤(主事)兩氏は責を負ひて辭表を提出す
るに至つた。